

インシデント管理システムソフト

mims

について

インシデント管理PT

リーダー 向田 隆通

リスクマネジメントとは

リスクを把握・特定することから始まり、把握・特定したリスクを発生頻度と影響度の観点から評価した後、発生頻度と影響度の積を評価の尺度とした、リスクの種類に応じて対策を講じる、

また、仮にリスクが実際に発生した際には、リスクによる被害を最小限に抑えるという一連のプロセス

リスクマネジメントのプロセス

リスクの評価

- リスクマネージャーの配置と実行体制の確立
- インシデントレポートの活用による報告

リスクの評価・分析

- ツール(SHEL(L)モデル)を用いたレポートの分析

対応方法の決定

- 分析結果への実務へのフィードバック

実行結果の再評価

- 一定期間経過後のレポート数確認やアンケート調査
- マクロ分析(統計分析)によるリスク軽減の確認

SHELモデルとは

インシデントを下記の様に展開して分析します

S: Software (ソフトウェア: 無形の要因)

- 施設の管理体制・規則上の問題点

H: Hardware (ハードウェア: 有形の要因)

- 施設の整備上の問題点

E: Environment (エンバイロメント、環境要因)

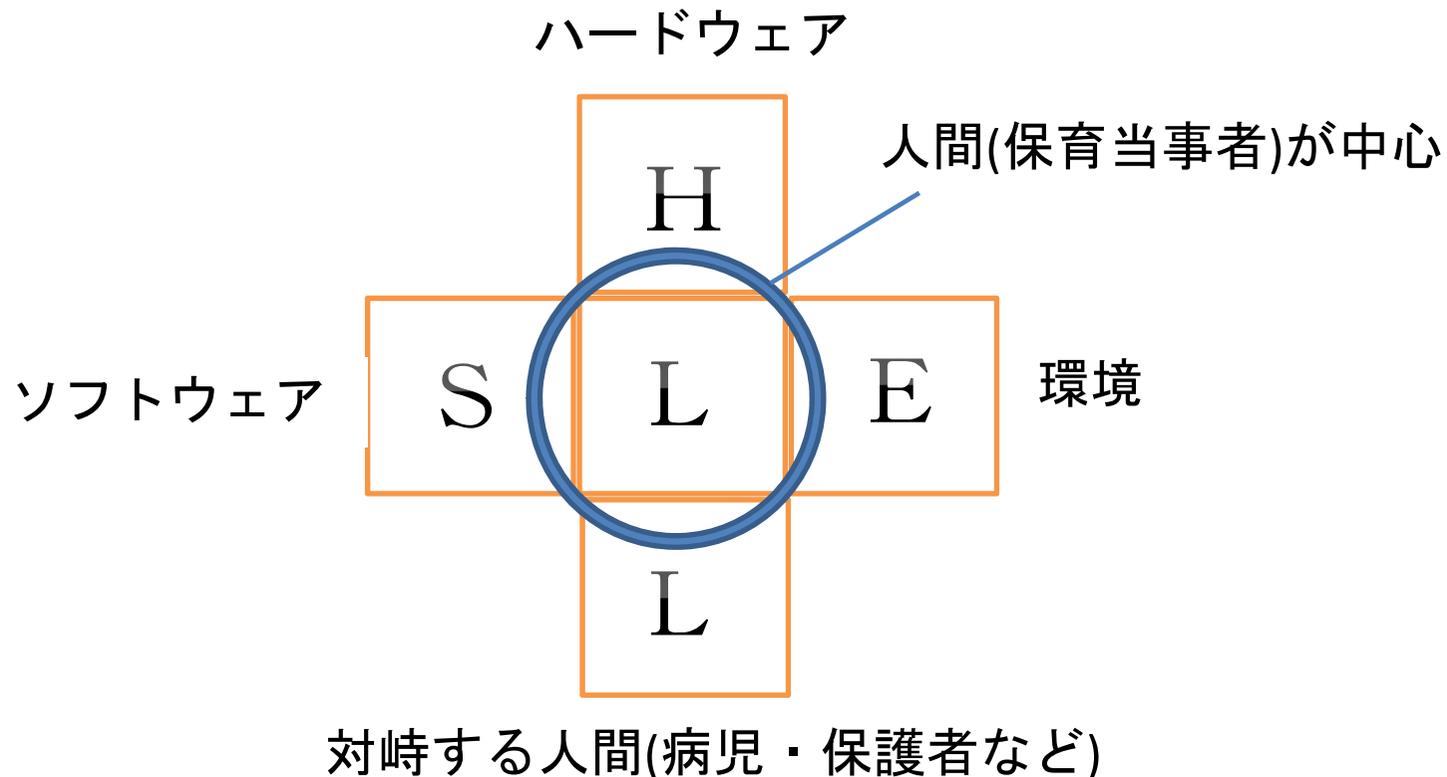
- 保育環境に関する問題点

L: Liveware (ライブウェア、当事者要因)

- 人間(スタッフ、病児、保護者など)に関わる問題点

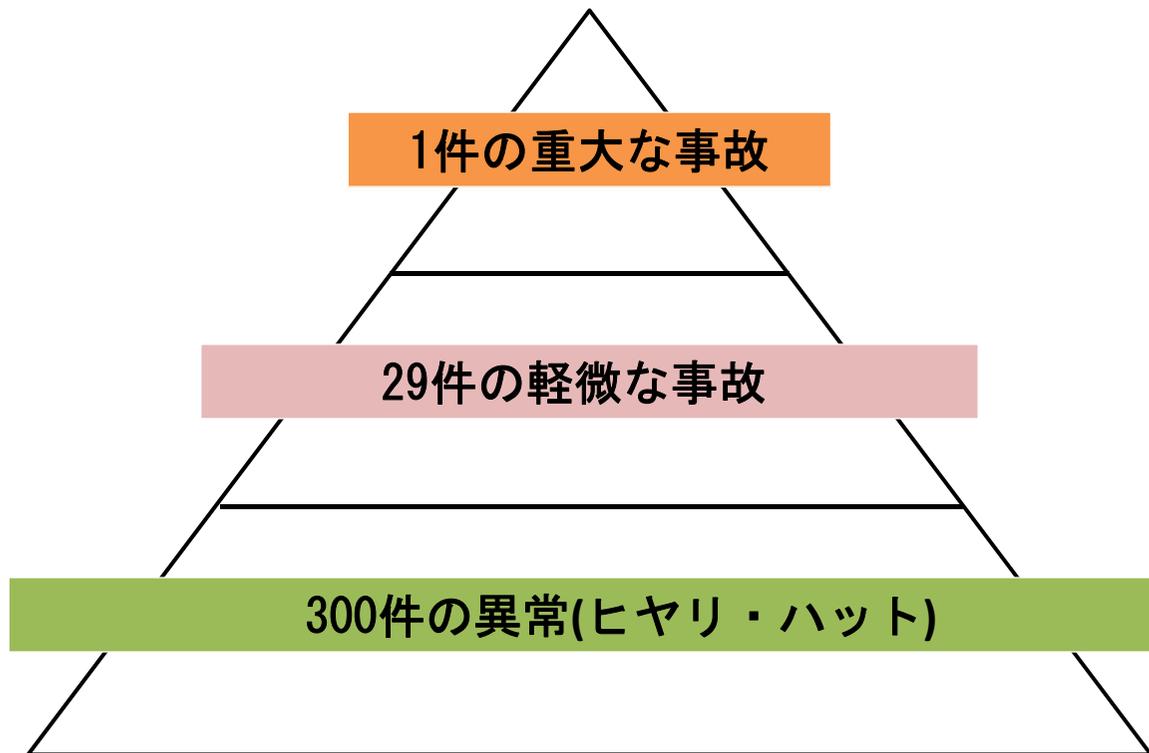
病児保育におけるSHELモデル

人間中心の業務である病児保育を、人間を取り巻く要素との関連を確認しながら分析することで、インシデントの発生を理解することができる



リスクマネジメントの必要性-(1)

1件の重大事故の背後には、29の軽微な事故があり、その背景には300のヒヤリハットが存在する。



リスクマネジメントの必要性-(2)

これは、ハインリッヒの法則と言われる労働事故・労働災害における経験則の法則です。重大事故の防止のためには、事故の発生が予測されたヒヤリ・ハットの段階で対処していくことが必要であるということを示すものです。

安全で質の高い病児保育サービスの提供には、全国の病児保育室でリスクマネジメントの標準化が求められています。

リスクマネジメントの必要性-(3)

病児保育室における問題点

スタッフが学習の
機会を得にくい

- リスクの高い保育との認識はあっても、経験がないので危機感がない、小さなアクシデントは表面化しない

限られた予算の中
で行わなければならない

- 多くの施設が赤字経営の中、効率的な運営が求められている

業界内での標準
化がなされていない

- 各施設のリスクマネジメントに対する考え方に温度差がある

リスクマネジメントの必要性-(4)

全国病児保育協議会では、数年前より「インシデントレポーティングシステム」を開発し、研修会でその普及に努めてきました。

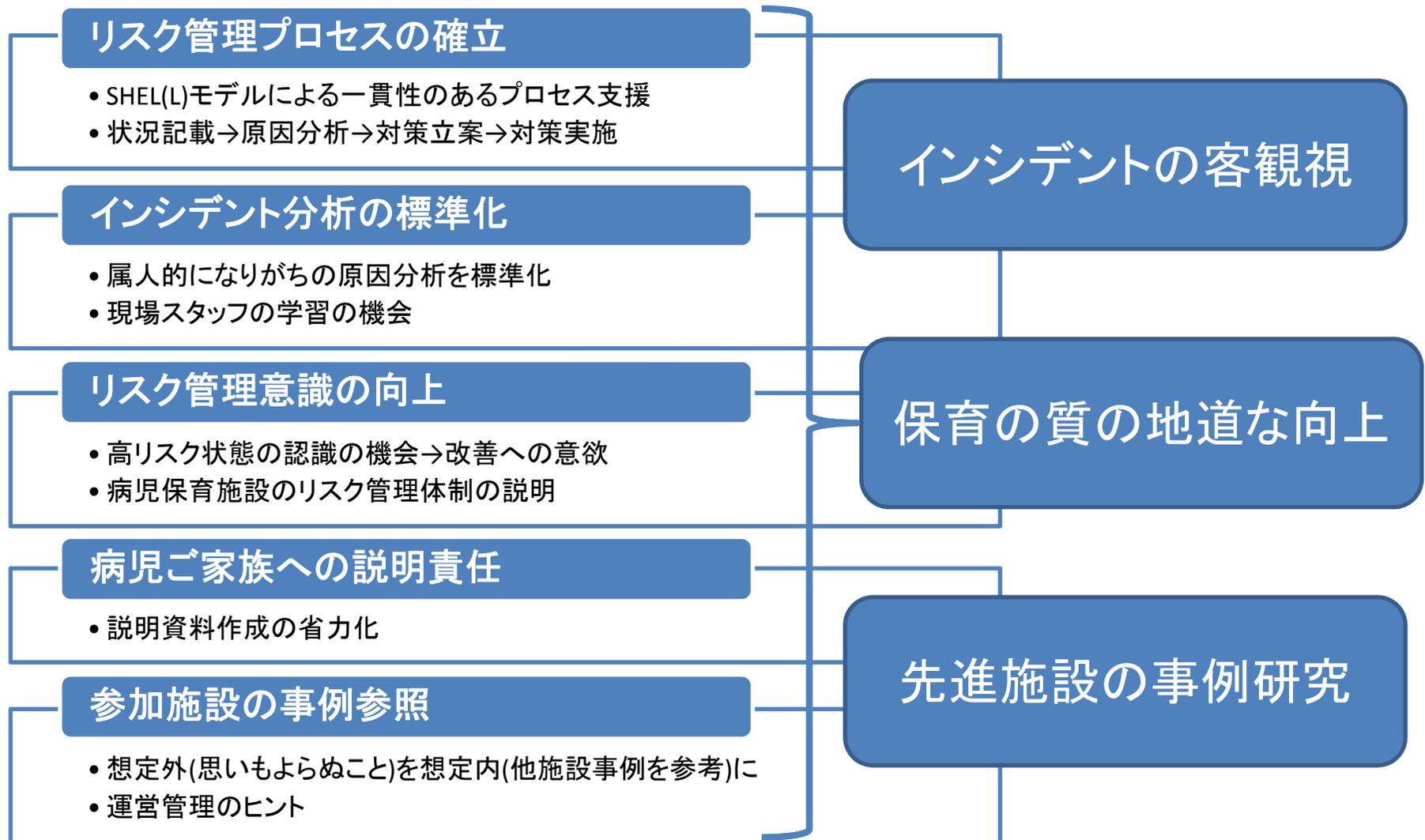
しかし、書類の枚数が多いことや、インシデントの定量化に計算やスキルを要することから、なかなか普及に至りませんでした。

リスクマネジメントの必要性-(5)

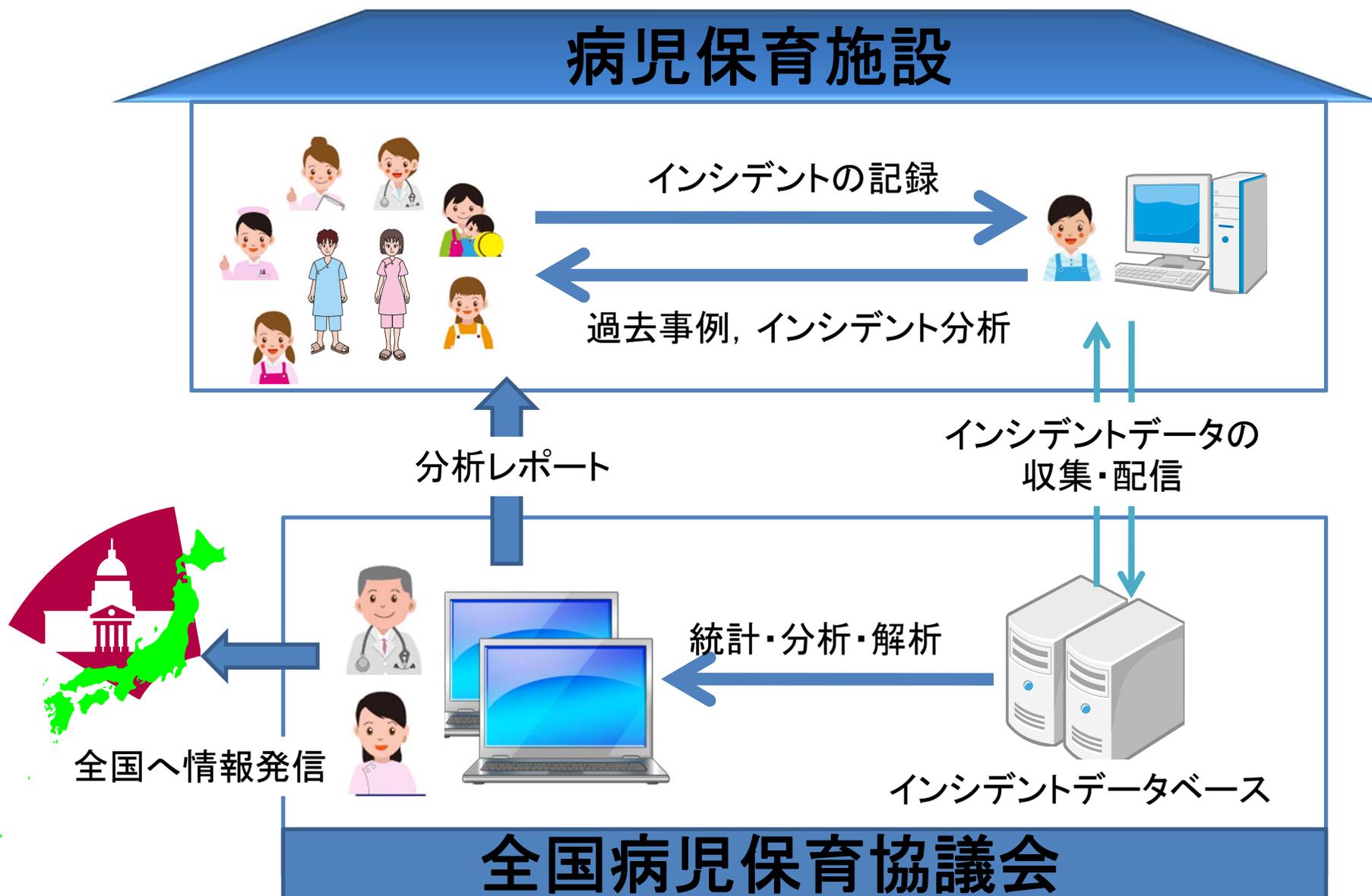
そこで協議会として、このシステムをアプリケーション化し、半自動化することでヒヤリハットの報告、インシデントレポーティングシステムの入力、集計を簡易に行うことができるように改良いたしました。

mimsと命名された「インシデントレポーティングシステム」のソフトを、11の施設での試験的に運用し、検討の結果、協議会として全施設への導入を目指し、病児保育室でのリスクマネジメントの標準化とすることを常任協議員会で決定しました

mims導入のメリット



インシデントシステムの構想



インシデントデータ収集配信の意義

参考事例・模範事例

- 想定外への対処検討の機会
- 施設運営・管理のヒント

全国規模でインシデントデータを蓄積・研究

- 調査研究委員会での解析・分析
- 解析・分析結果を実務へフィードバック

利用者・行政・研究機関への情報発信

- 解析・分析結果を全国に情報発信
- 利用者・行政からの理解・協力, 研究機関との共同研究

mims導入のデメリット

- インシデント記事の入力に時間を取られる
 - 入力に手間がかかり面倒
 - コンピュータは嫌い
- インシデント記事を公開したくない
 - 自施設のインシデントを見せたくない

・コンピュータに慣れる
・キーボード入力の手間は多くない
・iPadやスマートフォンの活用

・インシデント記録には個人・施設を特定する情報を登録しません。
・自施設のインシデントデータを公開しなければ他施設事例は参照できません。

インシデントレポートの必要性

インシデントレポートは、報告に必要にないと思われるような些細なインシデント、アクシデントを報告・記載することが必要です。

どうかな？と思ったものは全て記載するという状況が当たり前になることが必要です。

インシデントレポートを書く勇気、書くことを言う勇気が必要です。

お願い

総会で承認いただければ、今年度は全国で100施設、来年度は全施設への導入を行う予定です。

1施設、2万円程度のご負担をいただく予定ですが、負担以上のメリットを、デメリット以上のメリットを感じていただけると自負しております。